

令和2年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月29日実施)	総合評価 (4月7日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1)単位制の利点をいかした年次進行制の教育課程に基づき、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育活動を展開する。</p> <p>(2)学習意欲を高め、自ら考え、表現する力を育む。</p> <p>(3)基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力の育成を図る。</p>	<p>(1)新しい教育課程の理念を踏まえ、授業の量的確保を前提とした「単位制の利点」との整合を図る教科指導体制を模索する。</p> <p>(2)生徒の学習意欲を高める学習・進路指導の仕組みづくりを推進し、習得した力をアウトプットできる力を育成する。</p> <p>(3)前年に引き続き「わかる授業」を追求し、「何ができるようになるのか」を明確に示した教科指導を展開する。加えて、外部教材を導入することで、基礎学力のさらなる定着を図る。</p>	<p>(1)本校生徒に対応した新しい教育課程を策定し、授業の量的確保に合わせた教育規定の内容の充実を図る。</p> <p>(2)基礎力診断テスト等を活用し、外部の資格試験を実施することで学習意欲を高めるとともに、思考力・表現力を伸ばす教科指導に努める。</p> <p>(3)1年次に「マナトレ」を導入する。「何ができるか」を明確化し、「何ができたか」の振り返りを行う等の授業展開で、知識の定着を図る。また、授業改善研修会等を通して、教科で共通認識を持って「よりわかる授業」を追求する。</p>	<p>(1)新しい教育課程の理念に基づく教育活動を展開し、目標とする人材育成ができたか。(生徒による授業評価、進路状況等)</p> <p>(2)思考力、表現力を試す取組みができたか。外部試験の導入で、生徒の学習意欲を高めることができたか。(生徒による授業評価、各種試験の受験状況)</p> <p>(3)各教科の取組みの結果、生徒の学習状況が改善されたか。(生徒による授業評価、生徒の状況観察、基礎力診断テストの結果)</p>	<p>(1)本校の特色である学校設定科目を残して新教育課程表を作成することができた。</p> <p>(2)思考力・表現力を伸ばすことを目指した研究授業を各教科で行った。また、基礎力診断テストや外部資格試験を実施し、生徒の学習意欲向上に役立てることができた。</p> <p>(3)「マナトレ」を導入したことで、基礎学力の定着を図ることができた。生徒による授業評価から、「よりわかる授業」への各教科の工夫がうかがえた。</p>	<p>(1)新教育課程の学校設定科目が、従来の科目の増単で対応できるのか、内容を見直していくことが必要である。</p> <p>(2)思考力・表現力の伸長を狙った授業実践を更に考える。また、学習意欲の高い生徒を伸ばす教科指導に努める。</p> <p>(3)「マナトレ」の活用を工夫し、基礎学力の更なる定着を図る。</p>	<p>・各グループの取組みと成果(達成状況)、並びに今後の課題がしっかりと今後の課題がしっかりと精査がなされており、とてもよく理解ができた。項目ごとの教育方針が確立されており、感心した。</p> <p>・外部教材、外部試験の導入は、生徒、教員共に成果を客観視できるので、よいと思う。</p> <p>・生徒による授業評価で、全教科でアップしている事実が、取組みを物語っていると思われる。</p>	<p>(1)本校の特色を残して新教育課程表を作成することができたが、科目の増単で教育課程上対応できるのか直しが必要である。</p> <p>(2)基礎力診断テストを実施し、生徒の基礎力の定着を確認した。また、英検、漢検に加え、数検にチャレンジする学習意欲の高い生徒に対応した。思考力・表現力の伸長を狙った授業の取組みを行った。</p> <p>(3)「マナトレ」の導入が、基礎学力の定着率を上げている。各教科で、生徒による授業評価が上がっていることから、「よりわかる授業」への取組みがうかがわれる。</p>	<p>(1)県からの指摘を踏まえて教科でよく話し合い、よりよい新教育課程表を完成させる。</p> <p>(2)基礎力がなかなか定着しない生徒には、個別的な対応を考える。学習意欲の高い生徒を伸ばす教科指導に更に力を入れる。思考力・表現力の伸長を狙う授業の取組みが増えるよう、研修等を行う。</p> <p>(3)「マナトレ」の活用を工夫し、基礎学力の更なる定着を図る。「よりわかる授業」を追求するために、教科で共通認識を持って授業改善に取り組む。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>(1)生徒の規範意識を育成し、社会や集団の一員であるという自覚を持たせる。</p> <p>(2)学校行事等への積極的な参加を通し、豊かな人間性やコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>(3)教育相談・支援体制の整備に努め、生徒一人ひとりの豊かな学校生活を支援する。</p>	<p>(1)期待される行動を取ろうとしたり、マナーを守ろうとしたりする感性を醸成するとともに、他者を思いやり、違いを認める心や態度を育む。</p> <p>(2)学校行事や日頃の活動を通して、規範意識を身に付けさせながら、集団の一員としての責任感を育成する。</p> <p>(3)教育相談等を通して一人ひとりにきめの細かい支援を行う。</p>	<p>(1)「授業規律」の徹底、学校生活での挨拶の励行やルール・マナーを守らせることにより、生徒の規範意識や自尊尊重の心を育む。</p> <p>(2)学校行事や生徒会、部・同好会などの活動を通して、生徒同士が協力して企画・運営する体制づくりを行う。</p> <p>(3)教育相談やアンケートを通して個々の生徒の状況を把握し、いじめや問題行動を未然に防止する。</p>	<p>(1)生徒の規範意識が高まり、他者を尊重できる行動が取れたか。(遅刻、欠席数、指導件数の推移、挨拶の状況)</p> <p>(2)生徒が様々な活動を通して、お互いに協力して企画・運営する体制づくりができたか。(生徒の取組み状況、振り返りなど)</p> <p>(3)個々の生徒の状況把握、課題を認識した適切な指導、支援が行えたか。(スクールカウンセラーの活用状況、いじめアンケートの結果)</p>	<p>(1)欠席者数、遅刻者数、特別指導件数から見ると、「授業規律」は改善されている。</p> <p>(2)新型コロナウイルスの流行で中止になった行事の代替として「文化活動発表会」を行い、帰属意識を高めるとともに、年次やクラス単位での活動により責任感や達成感を得ることができた。</p> <p>(3)延べ40人がスクールカウンセラーを活用した。また、いじめアンケート結果を踏まえ、担任、副担任が素早い対応をし、諸問題の解決に結びついた。</p>	<p>(1)遅刻は減ってきているが、遅刻回数が多い生徒を減らすことが必要である。また、特別指導件数は今後も減らす努力が必要であり、全職員で対応していきたい。</p> <p>(2)感染症対策に取り組みながら、従来の行事を継承し、生徒の諸能力を伸ばせるよう発展させていきたい。</p> <p>(3)今後もスクールカウンセラーやいじめアンケート等を活用し、いじめや問題行動の未然防止に努める。</p>	<p>・項目別に課題を取り上げて取組みを行い、成果の上があったところ、課題が残ったところが明確に捉えられており、生徒一人ひとりに応じた、きめ細かい指導・支援が行われている様子が理解できた。</p> <p>・コロナによる行事中止と代替行事運営は大変だったとお察しする。如何に生徒が「自分たちの手で作り上げた」感を感じられるかが肝となる。新年度も達成感を味わえるものになることを期待している。</p>	<p>(1)遅刻者数、特別指導件数は減少した。生徒の規範意識の向上の表れと考えられる。自尊尊重の心も同様に育んでいきたい。</p> <p>(2)新型コロナウイルス感染防止で中止になった文化祭の代替として「文化活動発表会」を行った。年次、クラス、部活動で行事に取り組んだことで、達成感を得たようだった。</p> <p>(3)年次団で定期的に生徒情報を共有すると共に、スクールカウンセラーによる教育相談やいじめアンケート結果を活用し、時を逃さず諸問題に対応することができた。</p>	<p>(1)遅刻回数が多い生徒が減るような対応を考える。また、特別指導件数を減らす努力を全職員で行う。</p> <p>(2)感染症対策に取り組みながら、従来の行事を継承し、生徒の諸能力を伸ばせるよう発展させていきたい。</p> <p>(3)生徒の状況を共有し、教育相談や様々なアンケートを活用し、いじめや問題行動の未然防止に努めると共に、きめ細かい支援を行う。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月29日実施)	総合評価(4月7日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	(1)生徒が自ら将来像を描き、主体的に生涯を生きる姿勢を育てる。 (2)生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な進路希望の実現を支援する。	(1)-①高大接続改革に迅速に対応する。変化する社会で生き抜く人材の育成を進め、進路指導へ反映させる。 (1)-②生徒の学習意欲の高まりに応える進路指導を推進する。 (2)自分の可能性を信じて目標に向き合う「挑戦力」を育成するとともに、それを支える教員の進路指導力の向上を図る。	(1)-①高大接続改革についての情報収集を継続し、研修会等の機会を増やして情報を共有する。 (1)-②希望者講習や校外模試等を継続的に実施できるようにする。 (2)教員の進路指導力向上を図り、生徒が外部基準等を活用して将来を前向きに捉えて進路目標を考えられるよう、組織的な進路指導に取り組む。	(1)-①高大接続改革についての情報を正しく発信し、適切な指導、支援が行えたか。効果的な研修が実施できたか。(研修の実施状況、生徒の取組み状況) (1)-②講習や校外模試等を実施したか。(講習の講座数と受講者数、校外模試等の実施回数) (2)生徒の進路指導、支援が適切に行われ、目標実現がなされたか。(生徒の進路状況等)	(1)教員間で情報を共有して正しく発信することにより、高大接続改革やコロナ禍での入試方法の変更等に適切に対応することができたが、講習や校外模試は実施することができなかった。 (2)総合的な探究の時間等で進路への意識付けが続けたが、外部講師によるガイダンスや職業体験学習等は一部を中止せざるを得なかった。	(1)社会情勢の変化などに対応した進路指導ができるよう、さらなる校内体制の整備・充実を図り、効果的な教員研修を模索する。 (2)生徒がしっかりと進路目標を設定できるよう、今年度実施できなかった分野別説明や体験学習等の機会を増やす。	・コロナの影響で就職活動の形態及び業種による動向に差異が生じているので、“実施できなかった分野別説明会”の重要性が増す。また、コロナのために「進学を諦め就職」という生徒がもしいたら、長い目でアドバイスと奨学金等の情報提供も更に必要になってくると思われる。	(1)教員間で情報を共有し、正しく発信することにより、高大接続改革やコロナ禍での入試方法の変更等に適切に対応することができた。 (2)コロナ禍で、様々な進路行事が中止となった。そのことが進路指導に影響した可能性は否定できない。	(1)社会情勢の変化などに対応した進路指導ができるよう、さらなる校内体制の整備・充実を図る。「進学を諦め就職」という生徒にも丁寧に対応していく。 (2)生徒がしっかりと進路目標を設定できるよう、実施できなかった分野別説明や体験学習等の機会を増やす。生徒の進路実現に向け、丁寧に対応する。
4	地域等との協働	(1)家庭や地域との連携によりパートナーとして愛され、支持を得られる学校づくりを推進する。	(1)-①生徒に、地域の一員として活動する機会を提供し、自己を発信することに意義を見出させ、自己肯定感を高める。 (1)-②様々な機会を利用して、本校の教育活動を家庭や地域に発信し、理解と協力を求める。 (1)-③学校運営協議会を通じて「地域と共にある学校づくり」を進める。	(1)-①生徒が参加できる地域の企画や行事を紹介し、活躍する場を与えることで地域貢献の大切さを指導する。 (1)-②ホームページやTwitterを活用し、地域や家庭への情報発信を継続する。 (1)-③学校運営協議会での協議で「地域と共にある学校」の在り方を模索する。	(1)-①生徒が参加できる地域の企画や行事を紹介し、活躍する場を与えることができたか。地域貢献の大切さを指導できたか。(地域の企画や行事への参加状況、貢献度等) (1)-②地域等への発信は適時適切に行えたか。 (1)-③学校運営協議会を効果的に活用できたか。	(1)-①新型コロナウイルスの流行により地域行事が中止になり、参加することができなかった。 (1)-②ホームページ、Twitterで、家庭や地域への情報発信を適時適切に行った。 (1)-③学校運営協議会は書面開催だったため、十分な意見の交換ができなかった。	(1)-①コロナ禍でも可能な地域交流のあり方を検討していきたい。 (1)-②引き続き、家庭や地域への情報発信を行っていく。 (1)-③工夫しながら「地域と共にある学校づくり」の在り方を模索する。	・地域との協働については、今年度はコロナ禍で、全く達成できなかった。次年度は互いの行事に参加をし、相互の交流を一層深めていけたらと思う。 ・新型コロナが落ち着いたら、私共の施設を学習の場や機会としてご活用いただければと思う。 ・こんな状況だからこそ、若者の柔軟な頭、アイデアが地域社会にとって大きな力となる。	(1)-①新型コロナウイルスの流行により地域行事が中止になり、参加することができなかった。 (1)-②ホームページ、Twitterで、家庭や地域への情報発信を適時適切に行った。 (1)-③書面開催による学校運営協議会だったため、十分な意見の交換ができなかった。	(1)-①コロナ禍でも可能な地域交流のあり方を検討し、生徒に地域貢献の大切さを実感させ、自己肯定感の向上に結び付ける。 (1)-②様々な機会、媒体を活用し、地域や家庭へよりわかりやすい情報発信を継続する。 (1)-③コロナ禍での「地域と共にある学校づくり」の在り方を模索する。
5	学校管理 学校運営	(1)生徒が安全で、安心でき、居心地の良い学校生活を送ることができる、学校づくりに取り組む。 (2)より一層の組織的な学校運営と業務の効率化を図る。 (3)教員のワークライフバランスを推進するために、働き方改革を推進する。	(1)教育環境を整える意識の向上を図るとともに、非常時に向けた防災教育、防災用品整備に取り組み、生徒が安心して生活できる環境を確立する。 (2)誠実に職務に向き合い、生徒・保護者・県民から全幅の信頼を得られる学校づくりに取り組む。 (3)長期休業期間中の学校閉庁日を設定するとともに、校務の効率化を図る。	(1)日常の清掃活動や地域清掃、校舎内外の巡回等を実施する中で清潔を保ち、施設の整備を進める。さらに、DIGを活用した防災訓練を実施するとともに、防災用品保管場所を整備する。 (2)生徒や保護者、外部の方に対して丁寧に対応する。さらに成績処理、入学選抜における業務や点検の体制を見直し事故を防止する。 (3)夏季休暇を完全消化する。さらに、勤務時間内に業務が終了することを目指す職場環境づくりに取り組む。	(1)安全で安心な、居心地の良い教育環境を提供することができたか。DIGを活用した防災訓練を実施できたか。(生徒の状況観察、学校生活アンケート等) (2)事故防止会議を行い、職員の意識啓発ができたか。挨拶や電話対応など、相手に対して誠実に対応できたか。 (3)夏季休暇の取得率はどのくらいか。勤務時間内に会議が終了できていたか。	(1)校舎内外の巡回と並行した清掃ができた。また、コロナ感染症対策の清掃用具、ゴミ箱等の配置変更を行った。DIGは休校の影響もあり、時間が取れず実施できなかった。 (2)入選業務では、担当者の負担軽減を意識して各係を配置し、多忙から起きる事故防止を行った。 (3)企画会議、職員会議ともに効率よく運営できた。	(1)防災用品の整理を行い、スペースの確保を行ったが、保管場所が学校行事の資材置き場にもなっており、非常時には障害となってしまう可能性があるため、防災用品保管場所として独立していきたい。 (2)長期間の入選業務を複数の担当者で分担することが、業務改善、事故防止に繋がる。今年度は適切な分担が出来たので、来年度以降も継続したい。 (3)朝の打合せ時間を確保できたことが大きかった。今後は会議へのICT活用を検討したい。	・教員のワークライフバランスだが、この向上が結果的に生徒の心の充足度に繋がると思う。	(1)感染症対策の清掃用具、ゴミ箱等の配置変更を行うと共に、校舎内外の巡回や清掃活動を通し、清潔な教育環境を保つことができた。DIGは実施できなかった。防災用品の保管場所の問題点が明確になった。 (2)生徒や保護者等に対し、丁寧な対応に努めた。入選業務では、多忙からくる事故を防ぐような配慮を行った。 (3)企画会議、職員会議ともに効率よく運営できた。夏季休暇の取得率は、上昇した。	(1)防災用品の保管場所の問題点を解消し、非常時に障害とならないようにする。 (3)業務を分担することで、業務改善、事故防止に努める。 (3)教員のワークライフバランスを向上させ、生徒の心の充足度に繋げる。